

	質問	回答
1	事業内容全般について想定される先端技術は、生成AIやXR以外にも考えられますが、本業務において対象とする先端技術の範囲や優先順位について、可能な範囲で御教示ください。	本業務において対象とする先端技術については、生成AIやXR（AR／VR等）を含め、障がい者の文化芸術鑑賞における課題解決や体験価値向上に資する技術全般を想定しています。 具体的には、音声認識・字幕生成、手話表示、センシング、ナビゲーション、対話インターフェース、情報提示技術等も含み得るものと考えています。 なお、特定の技術領域を優先的に求めるものではなく、技術そのものの新規性よりも、 ・障がい当事者や文化施設のニーズとの適合性 ・実際の文化施設等における活用可能性 ・鑑賞体験の向上への寄与 ・今後の実証・展開可能性 等を踏まえた提案を期待しています。
2	仕様書P1の事業内容「(2)先端技術の調査・整理」について、技術カテゴリ（生成AI／AR・XR／センシング等）について、当該区分に沿うことが必須か、提案にあたり整理方法を調整しても差し支えないかご教示ください。	仕様書に記載している技術カテゴリ（生成AI／AR・XR／センシング等）は、調査・整理のイメージを示すものであり、必ずしも当該区分に厳密に沿うことを求めるものではありません。 提案内容に応じて、事業目的に資する形で整理方法やカテゴリ設定を工夫いただいて差し支えありません。 なお、その場合においても、技術と課題との関係性や整理の考え方が分かりやすく示されていることを期待しています。
3	仕様書P1の事業内容「(2)先端技術の調査・整理」の技術レビューについて、その趣旨やゴールについて、可能な範囲で御教示ください。「技術カテゴリの調査範囲及び評価視点の考え方」と「企業ヒアリング・技術レビューの実施方針」について、両者は関連づけて整理する想定か、それぞれ個別に記載する想定かご教示ください	本業務における技術レビューの趣旨は、先端技術そのものの動向整理に留まらず、障がい者の文化芸術鑑賞における課題に対して、どのような技術が活用可能であるかを整理し、今後の実証・モデル化につなげることにあります。 また、技術レビューのゴールとしては、個別技術の紹介に留まらず、文化施設等における実装可能性や活用場面を踏まえ、課題と技術の関係性を整理した上で、今後の実証事業等の検討に資する知見を得ることを想定しています。 そのため、「技術カテゴリの調査範囲及び評価視点の考え方」と「企業ヒアリング・技術レビューの実施方針」については、それぞれを独立して整理するというよりも、相互に関連づけながら整理いただくことを想定しています。 なお、具体的な整理方法や記載構成については提案によるものとしますが、 例えば、 ・想定される利用場面 ・活用上の利点・制約 ・導入・運用面での課題 ・コストや体制面の考慮 ・今後の発展可能性 等を踏まえ、多角的な観点から整理されることを期待しています。
4	仕様書P2の提案を求める事項「項目 C：課題と技術のマッチングの進め方」のうち「根拠データの扱い」「不確実性への対応」について、可能な範囲で問題意識等をご教示いただけますと幸いです。	本業務では、障がい特性や文化施設的环境、技術の成熟度等が多様であることから、必ずしも十分な既存データや確立された知見のみで整理できない事項も想定しています。 そのため、「根拠データの扱い」については、既存調査、文献、実証事例、企業ヒアリング等を踏まえつつ、どのような情報に基づいて整理・判断したかを明示いただくことを基本とします。 あわせて、どのような観点から情報を収集し、どのように根拠となるデータを取得・補完していくかといった、調査の進め方やデータ収集の考え方についても提案いただくことを期待しています。 また、「不確実性への対応」については、本業務においてはいかにデータ収集や検証を行ったとしても、技術の成熟度や利用環境の多様性等の観点から、不確実性が一定程度残ることを前提としています。 そのため、不確実性を単に解消すべき課題として捉えるのではなく、不確実な要素をどのように整理し、どのような考え方で評価・判断していくかといった観点から、基本的なスタンスを示していただくことを想定しています。 具体的には、どのような事項を不確実性として認識するのか、その影響をどのように捉えるのか、また、不確実性を前提とした上で、今後の実証やモデル化にどのようにつなげていくかといった整理の考え方について提示いただくことを期待しています。 例えば、不確実性としては、技術の精度や安定性、利用環境（施設規模や混雑状況等）による制約、利用者ごとの感じ方や使いやすさの違いなどが想定されますが、こうした点をどのように捉え、評価し、今後の検討につなげていくかについての基本的な考え方を示していただくことを想定しています。 なお、本業務において、個別技術ごとの詳細なリスク対応策や検証計画の策定を求めるものではなく、不確実な状況における整理・評価の考え方や進め方を示していただくことを重視します。
5	仕様書P2の提案を求める事項「項目 E：実績・専門性」のうち「障がい者支援、文化芸術、先端技術活用、公的調査等に関する直近の実績のうち、本業務に適用可能なものの概要」について、様式4が対応すると思われるのですが、様式2にも別途記載が必要でしょうか。また、様式2・4両方への記載が必要な場合、記載すべき内容の違いについてもご教示いただけますと幸いです。あわせて、個人の実績についても記載可能という理解でよろしいでしょうか。	（１）様式２と様式４の関係について 様式４は、主に個別の業務実績の概要を整理いただくことを目的としています。 一方、様式２においては、当該実績を含め、本業務に対する実施能力や専門性がどのように担保されるのか、という観点から整理いただくことを想定しています。 そのため、 ・様式４：個別実績の具体的内容 ・様式２：実績を踏まえた総合的な実施能力の説明 という役割分担を想定しており、両様式において関連する内容をご記載いただくことは差し支えありません。 （２）個人の実績の扱いについて 個人の実績についても、本業務への適用可能性が明確である場合には、体制や役割とあわせて記載いただいて差し支えありません。 その際は、当該実績が本業務の遂行にどのように活かされるか、現在のご所属団体でその実績を活用できることが分かるように整理してください。